



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町 1 丁目 3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

〈今年も残すところあと半月あまり!〉

令和6年も残すところ半月あまりとなりました。今年、地域学校協働活動やCSが順調に展開できたのは、ひとえに活動されている学校関係者・地域関係者の皆様のおかげと感謝しております。来年も、子どもたちの健やかな成長のために頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◆第3回事務連絡会議の開催!◆ R6.11.26

今回の事務連絡会議は、函館市の地域学校協働活動並びにCSの関係者7名をお招きして、相互に事例発表をし、お互いに交流を深めることとしました。

本課からの事業説明後、荒川中学校区学校運営協議会から、小中学生、地域の方、保護者、教職員等を巻き込んだ「CS地域交流会」の事例発表がありました。防災体験・野外ゲーム体験・炊事体験・避難場所確認などを内容とし、7月と10月の2回にわたって実施したパワフルな事例でした。次に筒井



CS 地域交流会



「CS さくらの和フェス」

中学校区学校運営協議会から、熟議により「CS さくらの和フェス」を生み出し、令和5・6年と2ヶ年にわたって、地域で学ぶ防災教室や親子で楽しむ伝統文化・サッカー教室・料理教室・ダンス教室などを内容とした取組の事例発表がありました。どちらの発表も子どもたちの成長のためという思いと「つながり」がキーワードとなる事例発表でした。

模擬熟議では、今の子どもたちの良さや課題を挙げ、将来どんな社会人に育ってほしいかを考え、そのために必要な取組のアイデアを出すという形で、一部ワールドカフェ方式を取り入れて実施しました。各班に、拍手、うなずき、笑い声がひびく楽しいながらも真剣な話し合いがなされました。



模擬熟議

【～函館市からの事例発表概要～】

① 桔梗地区つながるマルシェ

函館市桔梗地区では、町活性化のために包括支援センターの協力を得て「つながるマルシェ」を2ヶ年にわたって開催しました。学校・町会・包括支援センター各々が目的をしっかりと持ち、その目的を果たすべく、学校では作品展示・備品貸し出し・中学生ボランティアの手伝い等、町会では会場テント設営・音響機器準備・野菜の直販・キッチンカー出店等、包括支援センターでは施設内見学・協力団体の健康管理推進事業・障がい者施設の物販や演舞・福祉アイテムの紹介や実演等を内容とし、企画運営にあたりました。

当初の目的はほぼ達成しましたが、反省点は集客力不足でした。回覧板やメール等で周知したものの、日程的余裕がなく苦労しました。2年目は会場の配置の工夫・内容の一部変更や協賛金を募る等の工夫をして実施しましたが、やはり集客力不足はありました。2年を通じて手法は様々でも掲げた目的がブレないことが大切と感じました。



② 地域人材を活用した学習活動

函館市立本通中学校区では、地域人材を活用した「地域ボランティア清掃」「家庭科の学習活動の補助」「地域学習の見守り活動」「古着 de ワクチンプロジェクト」などが行われています。古着 de ワクチンプロジェクトとは、不要になった衣類を活用し世界の子どもたちにワクチンの提供などをする事業です。地域と学校が連携・協働して活動することでつながりを深め、さらに SDGs の視点からも有効な取組と考え実行しました。実行委員会の立ち上げや協力していただける企業や団体・事業所との交渉を経て、チラシを作り、それを紙やメールで学校や町会に配り、古着の交換会を中学校体育館で実施しました。

成果として、学校理解が深まった、若い世代との接点ももてた、新たなつながりの誕生があった、SDGs の視点が広がったなどが見られました。今後はさらに様々な世代に広く参加できる仕掛けづくりを考えています。また、新たに「中学校制服リサイクルプロジェクト」も進行しています。今後も、子どもたちの安心安全な環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。



◆学校訪問から見えてきたことと今後の課題◆ 地域学校協働活動編

先日、今年度の学校訪問を無事に終えることができました。ご協力いただいた全小中学校の関係者の皆様、ありがとうございました。訪問を終えて見えてきたことと今後の課題を次のようにまとめてみました。

学校訪問から見えてきたこと

- ◇活動の浸透・・・学校と地域が連携して子どもの成長を図ることは必要不可欠、という肯定的な事業の捉えが各校に浸透してきた
- ◇活動の深化・・・ボランティアをする側、される側という一方の考えから、活動が双方向の交流へと深化してきた
- ◇推進員の意識向上・・・推進員の役割として、単なるつなぎ役から事業の推進、あるいは地域と深く関わることを求めるようになってきた
- ◇PTA との融合・・・PTA 活動とすみ分けしたり、隙間を埋めたりという関係から、有機的に補完・融合した一体的な活動へと成長が見られ始めた
- ◇年間計画の定着・・・年度初めに年間スケジュールができており、募集や活動の工夫が行われてきた
- ◇募集方法の多様化・・・マチコミ等の SNS・紙媒体・口コミ・個人的勧誘と多様な方法でボランティアを募り、やって良かったと思わせる仕掛けや工夫が見られるようになった
- ◇地域づくりの意識・・・ボランティア活動が子どものため学校のため、さらに自分のため、ひいては地域づくりのためという意識が徐々に生まれてきた
- ◇居場所づくり・・・人が関わるには居場所が必要、子どももボランティアも推進員も〇〇スペース・〇〇ルーム等の居場所を欲している

※学校運営協議会編は、次号でお伝えします

今後の課題は何か

- ・推進員の後継者不足
- ・安定したボランティアの数
- ・地域への事業周知広報
- ・活動者の高齢化
- ・活動者の仲間づくり
- ・地域住民の巻き込み方
- ・先生方の更なる事業理解



今後も継続していくべきこと

- ・様々な方法(口コミ・HP・回覧板・〇〇だより、会議の場等)を駆使しての幅広い事業周知
- ・仲間、関係者づくりのための継続的な声かけ(例：元気な 60・70 代をゲット)
- ・学校の空き教室、地域施設(公民館、〇〇センター等)の積極的な活用
- ・活動の際の様々な工夫(居場所・時間・声かけ・交流をキーワードとした取組等)
- ・各校での先生方への周知広報

編集後記・・・今回は函館市からの参加があり、新しい風を感じた連絡会議でした。違った視点での活動は刺激になり、思いと方向性は同じ事が確認でき、非常に有意義な会議となりました。今度は函館に行けるといいなあ…。